

医学教育分野別評価 三重大学医学部医学科 年次報告書
2025 年度

医学教育分野別評価の受審 2019（令和元）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 31

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36

はじめに

本学医学部医学科は、2019 年度に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2021 年 2 月 1 日から 7 年間の認定を受けた。その後、評価結果に示された「改善のための助言」に基づいて、教務委員会を中心に教育の改善に向けての新たな取組みを開始した。その状況を 2023 年度の年次報告書として提出する。本年次報告は、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36 に準拠して作成した。また、本年次報告書に記載した教育活動は、2024 年 4 月から 2025 年 3 月までを対象としている。なお、重要な改定のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36 の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

1.1 使命

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

・ディプロマポリシーの改訂について、医学教育ワーキンググループ、教務委員会、教授会で検討を重ねた。医学部の基本理念「確固たる使命感と倫理観をもつ医療人を育成し、豊かな想像力と研究能力を養い、人類の健康と福祉の向上につとめ、地域および国際社会に貢献する」との関連性をより明確にする形に改訂した（資料 1-1）。

・カリキュラムポリシーとカリキュラムマップを改訂し、カリキュラムの到達目標とディプロマポリシーとの関連性を明示した（資料 1-2, 1-3）。

今後の計画

・定められた使命に向けて、教務委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会等、関連する委員会が連携して医学教育に取り組む。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-1）ディプロマポリシーに対するコンピテンシー

（資料 1-2）医学部医学科カリキュラムポリシーの見直し（案）について

（資料 1-3）医学部医学科カリキュラムマップ（案）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・使命に、医学研究、国際的健康および医療の観点を包含している。

改善のための示唆

・なし

改善状況

・研究能力の涵養をさらに促進するため、研究室研修を 3-4 年次から 1 年次に移行することを決定した（資料 1-4）。3-4 年次に比べて、1 年次のカリキュラムは研究室で活動しやすい構成となっており、リサーチマインドの涵養を促進する効果が期待できる。

・地域および国際社会への対応をさらに強化するため、医学・看護学教育センターの枠組みを再編し、国際交流部門、地域医療・看護教育部門を設置することになった（資料 1-5）。

今後の計画

・2025 年度より 1 年次での研究室研修を開始し、医学研究の達成度に与える影響を研究室研修専門委員会等、関連する委員会で検証する。

・2025 年度より医学・看護学教育センターにおける国際交流部門、地域医療・看護教育部門を設置し、国際的健康や地域医療に向けた医学教育のさらなる充実を図る。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-4）研究室研修（2025 年度）の改訂

（資料 1-5）医学・看護学教育センター在り方検討 WG 答申案

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

・カリキュラム委員会やカリキュラム評価委員会において、医学教育・モデル・コア・カリキュラムとの整合性を念頭におきつつ、自律性を持った教育施策を構築・実施するためのカリキュラムについて議論を重ねた（資料 1-6、1-7）。

・教務委員会の各専門委員会が前年度の実績を踏まえた懸案事項を作成し、カリキュラムを実施するために配分された資源の活用等について議論した（資料 1-8）。

今後の計画

・教務委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員の独立性に留意しつつ、連携し

た活動を行い、組織として自律性を持って教育施策を構築し、実施する体制を強靱化する。

- ・医学部教授会が、大学の自律性および教育・研究の自由の状況を常に管理監督する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-6）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2025.1
- （資料 1-7）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2025.2
- （資料 1-8）令和6年度各専門委員会の懸案事項と活動計画

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

改善状況

- ・カリキュラム委員会やカリキュラム評価委員会において、教育・研究に関して学生委員が自由に意見を述べ、討論した（資料 1-6、1-7）。
- ・教員と学生とがともに参加する「新入生と教員が語る会」（第1学年対象）（資料 1-9）、「医学教育を語る会」（第3学年対象）（資料 1-10）、「診療参加型臨床実習を語る会」（第5学年対象）（資料 1-11）を継続して実施し、現行カリキュラムに関して意見交換した。
- ・6月、12月、3月に医学科2年生の専門科目を担当する教員と学生がカリキュラムについて議論する場を設定した（資料 1-12）。
- ・公欠願に関する申し合わせを改訂し、学生と教員が、教育向上のために最新の研究結果を探索し、活用することへの自由度を高めた（資料 1-13）。

今後の計画

- ・教員と学生の対話をさらに促進し、教員と学生の教育・研究の自由を保障しながら、現行カリキュラムの検討・改善を進める。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-6）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2025.1
- （資料 1-7）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2025.2
- （資料 1-9）医学部医学科第1学年「新入生と教員が語る会」 2024.6
- （資料 1-10）医学部医学科第3学年「医学教育を語る会」 2025.2
- （資料 1-11）医学部医学科第5学年「診療参加型臨床実習を語る会」 2024.11
- （資料 1-12）医学科2年生と教員のミーティング
- （資料 1-13）三重大学医学部公欠に関する申合せ

1.3 学修成果

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

- ・学修成果（コンピテンシー/到達目標）は、ディプロマポリシーに対応して、より具体的で、学生が理解可能なコンピテンシー（観察可能な能力）を設定し、学内に広く周知すべきである。
- ・学生が、臨床実習のみならず低学年においても、学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとれるよう、行動規範の策定などにより、確実に修得させるべきである。

改善状況

- ・改訂したディプロマポリシーに対するコンピテンシーと評価方法の案を作成した（資料 1-1）。
- ・授業科目における到達目標と、改訂したディプロマポリシーとの関連性を明記した対応表を作成した（資料 1-3）。
- ・「三重大学医学部医学科におけるアンプロフェッショナルな学生の報告・評価要領」の運用を開始し、報告例への対応方法などについて教務委員会で議論した（資料 1-14）。

今後の計画

- ・ディプロマポリシーに対するコンピテンシーと評価方法についての議論を積み重ね、確定させる。ディプロマポリシーと、コンピテンシー、学修成果の関連性を明示するとともに、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会等、学生が参加する委員会において継続的に議論し、卒業時に発揮すべき能力に関する学生の理解をより深めていく。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-1）ディプロマポリシーに対するコンピテンシー

（資料 1-3）医学部医学科カリキュラムマップ（案）

（資料 1-14）三重大学医学部医学科におけるアンプロフェッショナルな学生の報告・評価要領

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

- ・卒業時の学修成果と卒業後研修終了時の学修成果とを関連づけることが望まれる。

改善状況

- ・カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会それぞれに、医学部附属病院臨床研修・キャリア支援部の大学教員 1 名と、関係教育病院を代表する者 1 名が委員として参画し、卒業時の学修成果と臨床研修終了時の学修成果とを関連づけたカリキュラム構築の実現に向

けて具体的な方策を議論した（資料 1-7、1-15）。

今後の計画

- ・学外の臨床教授・准教授・講師など、卒業生が将来働く環境からの情報共有や、卒業生と語る会の実施などを通して、卒後研修終了時の学修成果に関する情報を蓄積し、卒業時の学修成果との関連付けを行う。
- ・2025 年度より医学・看護学教育センターに地域医療・看護教育部門を設置し、社会からの要請に対応できる能力に関する学修成果項目をさらに明確化する。
- ・CC-EPOC と PG-EPOC を活用し、それぞれの情報を関連づけることの実現可能性を検討する。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-7）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2025. 2

（資料 1-15）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2025. 3

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・使命と学修成果の策定には、学生代表や職員など、教育に関わる主要な構成者の積極的な参画を促すべきである。

改善状況

- ・カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会ともに、教員だけでなく、各学年の代表 1 名ずつと事務職員、教員が委員として参画する体制を確立し、委員会での議論を重ねた（資料 1-6、1-7）。
- ・各学年の学生有志と教務委員長・学生委員長との懇談会を毎月実施し、学生からの意見を聴取した。学生の意見は教務委員会で共有し、教育改善に反映させた（資料 1-16）。

今後の計画

- ・カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会や、学生有志と教務委員長・学生委員長との懇談会等の活動を通して、医学科の使命と学修成果の策定における、教育に関わる主要な構成者の参画を推進していく。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-6）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2025. 1

（資料 1-7）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2025. 2

（資料 1-16）学生有志と教務委員長・学生委員長の懇談会 2024. 12

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・使命と学修成果の策定には、広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取することが望まれる。

改善状況

・広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取するための方策について、カリキュラム委員会やカリキュラム評価委員会で議論した（資料 1-6、1-7）。

今後の計画

・2025 年度より医学・看護学教育センターに義務年限を修了した医師（地域枠入学者）を助教として採用することを検討している。実現すれば、三重県市町村関係者からの意見をより広く取り入れることが期待できる。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-6）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2025.1

（資料 1-7）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2025.2

2. 教育プログラム

基本的水準:適合

特記すべき良い点(特色)

・第1 学年からの「スタートアップセミナー」や「教養ワークショップ」、臨床医学教育における PBL チュートリアル、エレクトィブ臨床実習など、アクティブ ラーニングを積極的に導入していることは高く評価できる。

・多様な海外体験実習がカリキュラムに組み込まれていることは評価できる。

改善のための助言

・なし

改善状況

・継続して PBL チュートリアル教育を行っている。（資料 2-1、2-2）。

・文科省事業等の採択を受けて、シミュレータや仮想現実および拡張現実教材を中心とした自学自習教材の活用によるアクティブ ラーニングの推進を継続している（資料 2-3）。

・自己学習を促すため一部授業で e-learning システム（CKSJ など）を継続して使用している（資料 2-4、2-5）。

・共通教育の選択授業として英国のシェフィールド大学で行われる英語特別プログラムが開催され、5 名の医学科学生が参加した（資料 2-6）。

・シラバスに、「学修の目的」「学修の到達目標」「ディプロマポリシー」「成績評価方法と基準」が明記されている（資料 2-7）。

・障害学生支援の FD 研修会と e-learning が実施された（資料 2-8、2-9）。

今後の計画

- ・アクティブ ラーニングを支援するための e-learning 教材の整備を進める。
- ・障害学生支援に関しては、本年度も e-learning 等で教職員に周知する方針である。

改善状況を示す根拠資料

- (資料 2-1) 2023 年度 3 年生～2024 年度 4 年生 ユニット計画
- (資料 2-2) 2024 年度 3 年生～2025 年度 4 年生 ユニット計画
- (資料 2-3) 令和 6 年度事業報告書 (黒潮医療人養成プロジェクト)
- (資料 2-4) 2024 年度 医学科 4 年生 臨床実習前集中講義 講義計画予定表
- (資料 2-5) 春休みの課題 CKSJ (解剖学)
- (資料 2-6) 英国シェフィールド大学 英語特別プログラム
- (資料 2-7) ウェブシラバス (解剖学)
- (資料 2-8) 令和 6 年度障害学生支援に関する e-learning 研修の実施について
- (資料 2-9) 障害学生支援セミナー2024

質的向上のための水準:適合

特記すべき良い点(特色)

- ・アクティブ ラーニングの積極的な導入など、自らの学びを深める取り組みを進め、生涯学習につながるスキルを修得できるプログラムを提供していることは評価できる。

改善のための示唆

- ・なし

改善状況

- ・1 年生の必修の授業であるキャリア教育入門および医療と社会において、行動科学に関する授業を継続して行っている (資料 2-10、2-11)

今後の計画

- ・前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- ・前項「基本的水準」と同じ
- (資料 2-10) ウェブシラバス (キャリア教育入門)
- (資料 2-11) 2024 「医療と社会：行動科学と心理」 日程・担当者一覧

2.2 科学的方法

基本的水準:適合

特記すべき良い点(特色)

- ・「新医学専攻コース」や「研究室研修」などの医学研究を体験する機会を設け、英文での計画書作成や英語での発表を行い、ピア評価も受けていることは高く評価できる。

改善のための助言

- ・学生のEBMの活用は、エビデンスへの批判的解釈や個々の患者への適用の点で課題がある。EBM教育の妥当性について、学生や学外者から評価や助言を受けるべきである。

改善状況

- ・第4学年臨床実習前集中講義においてEBMに関する授業を導入し、臨床現場でのEBMの活用に関する教育を継続して行っている（資料2-4）。
- ・臨床シナリオを用いる問題基盤型チュートリアル教育（第3-4学年）と臨床実習（第4-6学年）では、インターネットを介しEBM情報を入手できるソフトウェアシステム（UpToDate）を利用できる学習環境を学生に提供するとともにその活用方法に関する授業を継続して実施している（資料2-4、2-12）。
- ・現行のカリキュラムをカリキュラム評価委員会が評価し、その評価に基づきカリキュラム委員会が新たなカリキュラムを立案し、教務委員会と各専門委員会が新たなカリキュラムに則った授業を実施するという運用が始まった（資料1-7、1-15、2-13）。

今後の計画

- ・第4学年臨床実習前集中講義に導入したEBMに関する授業を継続する。
- ・令和7年度から、これまで第3学年9月～第4学年7月で実施していた研究室研修を第1学年に移行する（資料1-4）。これにより、学生たちは第1学年から、分析的で批判的思考を含む、科学的手法の原理、医学研究の手法、EBMなどにふれる機会が得られる。また、研究室研修の修了後、引き続き新医学専攻（選択授業）を選択し、研究を継続して行う学生が増加することが期待される。

改善状況を示す根拠資料

- （資料1-4）研究室研修（2025年度）の改訂
- （資料1-7）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2025.2
- （資料1-15）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2025.3
- （資料2-4）2024年度 医学科4年生 臨床実習前集中講義 講義計画予定表
- （資料2-12）UpToDate説明会
- （資料2-13）医学科教務委員会議事概要 2024.12

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

改善状況

- ・教育専門委員会ごとにカリキュラムの内容や教育方法の課題を抽出し、改善策を立案している。これらの状況を教務委員会で統括的に把握し、科学的方法に基づくカリキュラム構成や科学的に適切である教育方法の採用が適切に行われていることを確認するよう努めている

る（資料 1-8）。

・1～2 年生で実施される授業である医療と社会のなかで、地域基盤型実習として、学生たちはグループごとに三重県の各地域へ行き調査を行い、発表会で報告している（資料 2-14）。

・黒潮医療人養成プロジェクトで、フィールドワークを行っている（資料 2-3）

・現行のカリキュラムをカリキュラム評価委員会が評価し、その評価に基づきカリキュラム委員会が新たなカリキュラムを立案し、教務委員会と各専門委員会が新たなカリキュラムに則った授業を実施するという運用が始まった（資料 1-7、1-15、2-13）。

・「医学科学会イベント掲示板」で、学生に向けて学会やイベントの案内を行っている（資料 2-15）。

今後の計画

・医学・看護学教育センターを中心に、授業に関するアンケートを継続して実施している（資料 2-16）。

・1 年生で実施する研究室研修では、前期は最先端の研究にふれる講義形式の授業が行われる。また学生たちは自主的に興味のある研究室を訪問し、研究内容などの話を聞き、所属したい研究室を見つける。マッチングの結果、配属された研究室において、後期から実際の研究活動を行う予定である（資料 1-4）。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-4）研究室研修（2025 年度）の改訂

（資料 1-7）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2025. 2

（資料 1-8）令和 6 年度各専門委員会の懸案事項と活動計画

（資料 1-15）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2025. 3

（資料 2-3）令和 6 年度事業報告書（黒潮医療人養成プロジェクト）

（資料 2-13）医学科教務委員会議事概要 2024. 12

（資料 2-14）2024 年度地域基盤型保健医療教育実習 報告会

（資料 2-15）医学科学会イベント掲示板

（資料 2-16）大学学習環境評価アンケート

2.3 基礎医学

基本的水準:適合

特記すべき良い点(特色)

・なし

改善のための助言

・基礎医学教育の総合的な学修成果についての目標や、目標達成のための教育方針を、授業担当者間で共有すべきである。

・臨床医学の修得のために必要な知見、概念、手法を吟味し、基礎医学教育を検討すべきである。

改善状況

- ・教務委員会の下に基礎医学教育専門委員会を設置し、基礎医学教育の改善に向けての検討を継続して行なっている（資料 2-17）。
- ・現行のカリキュラムをカリキュラム評価委員会が評価し、その評価に基づきカリキュラム委員会が新たなカリキュラムを立案し、教務委員会と各専門委員会が新たなカリキュラムに則った授業を実施するという運用が始まった（資料 1-7、1-15、2-13）。

今後の計画

- ・カリキュラム評価委員会からの報告をもとに、カリキュラム委員会によるカリキュラムの改善案の立案、これらの評価と提案に基づく教務委員会と基礎医学教育専門委員会による継続的な基礎医学教育カリキュラムの改善に取り組む。
- ・系統解剖実習に、臨床系教員が参加することで、部分的に垂直統合がなされた実習を実施する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-7）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2025. 2
- （資料 1-15）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2025. 3
- （資料 2-13）医学科教務委員会議事概要 2024. 12
- （資料 2-17）基礎医学教育専門委員会議事録 2024. 12

質的向上のための水準: 適合

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・科学的、技術的、臨床的進歩および将来的に必要となることは、個別の科目単位だけではなく、医学部医学科として検討し、カリキュラムに反映させることが望まれる。

改善状況

- ・社会や保健医療システムにおいて必要となることは、第 1 学年から第 6 学年まで継続して学習できるカリキュラムが編成されている（資料 1-3）。
- ・現在および将来的に社会や保健医療システムにおいて必要となることの教育を含む体系的なカリキュラムの実施に向けて、教務委員会が各教育プログラムの課題把握と改善に取り組んでいる（資料 1-8）。
- ・現行のカリキュラムをカリキュラム評価委員会が評価し、その評価に基づきカリキュラム委員会が新たなカリキュラムを立案し、教務委員会と各専門委員会が新たなカリキュラムに則った授業を実施するという運用が始まった（資料 1-7、1-15、2-13）。

今後の計画

- ・社会や保健医療システムにおいて必要となることの学習について、カリキュラム評価委員会が現行カリキュラムの評価を行い、カリキュラム委員会がカリキュラムの改善案を立案

する。それらの評価と提案に基づいて、教務委員会と関連する教育専門委員会がカリキュラムを実施する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-3） 医学部医学科カリキュラムマップ（案）
- （資料 1-7） 三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2025. 2
- （資料 1-8） 令和 6 年度各専門委員会の懸案事項と活動計画
- （資料 1-15） 三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2025. 3
- （資料 2-13） 医学科教務委員会議事概要 2024. 12

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)

・なし

改善のための助言

・行動科学を医学教育の一領域として位置付け、教育目標や教育内容をさらに検討し、行動科学や社会医学などのカリキュラムを体系立てて構築し、実践すべきである。

改善状況

- ・1年生の必修授業である医学医療入門に2024年度から社会医学の内容が追加された（資料 2-18）。
- ・1～2年生の必修授業である医療と社会において、少人数のグループ学習で行動科学に関する授業を行っている（資料 2-11）
- ・臨床実習前集中講義において、行動科学の講義を行っている（資料 2-4）。
- ・現行のカリキュラムをカリキュラム評価委員会が評価し、その評価に基づきカリキュラム委員会が新たなカリキュラムを立案し、教務委員会と各専門委員会が新たなカリキュラムに則った授業を実施するという運用が始まった（資料 1-7、1-15、2-13）。

今後の計画

- ・カリキュラム評価委員会からの報告をもとに、カリキュラム委員会が行動科学カリキュラムの改善案を立案する。それらの評価と提言に基づいて、教務委員会と行動科学・社会医学教育専門委員会とが、実効性のある行動科学カリキュラムを実施することを計画する。
- ・行動科学、プロフェッショナルリズム、医療法学、医療倫理学に関する授業を体系化することを計画している。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-7） 三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2025. 2
- （資料 1-15） 三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2025. 3
- （資料 2-4） 2024 年度 医学科 4 年生 臨床実習前集中講義 講義計画予定表
- （資料 2-11） 2024 「医療と社会：行動科学と心理」 日程・担当者一覧

（資料 2-13）医学科教務委員会議事概要 2024.12

（資料 2-18）2024 年度医学医療入門授業内容表

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・行動科学、医療倫理学および医療法学の分野において、進歩ならびに将来必要になると予測されることを十分に検討し、カリキュラムに反映させることが望まれる。

改善状況

- ・1～2年生の必修の講義である医療と社会において、行動科学に関する授業を行っている（資料 2-11）
- ・法医学講義において弁護士や元児童相談所所長といった学外講師を招き、医療・保健・福祉に関する授業を継続して行っている（資料 2-4、2-19、2-20）。
- ・第4学年臨床実習前集中講義に医療倫理学および医療法学を体系的に学習する授業を導入し、継続して実施している（資料 2-4）。

今後の計画

・医療倫理学および医療法学の分野における進歩、ならびに将来必要になると予測されることを学ぶ授業を実施し、継続的な改善を行うため、カリキュラム評価委員会からの報告をもとに、カリキュラム委員会はカリキュラムの改善案を提案する。これらの委員会からの評価や提案を基に、教務委員会と行動科学・社会医学教育専門委員会とが連携して、行動科学教育の継続的な改善に取り組むことを計画する。

改善状況を示す根拠資料

（資料 2-4）2024 年度 医学科 4 年生 臨床実習前集中講義 講義計画予定表

（資料 2-11）2024 「医療と社会：行動科学と心理」 日程・担当者一覧

（資料 2-19）令和 6 年度非常勤講師の採用について

（資料 2-20）令和 6 年度 3 年生スケジュール

2.5 臨床医学と技能

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

- ・基礎医学から臨床医学への橋渡しの教育である「チュートリアル教育」では、基礎医学系教員の参画を促し、臨床医学教育の多角的な視点からの充実を図るべきである。
- ・臨床実習における、診療参加型臨床実習の期間を十分に確保すべきである。

・内科、外科、総合診療科/家庭医療学、産婦人科、小児科では臨床実習の時間数は確保されているが、精神神経科は2週間の実習となっている。精神神経科においても十分な実習期間を確保すべきである。

改善状況

・診療参加型臨床実習の全実習期間を国際標準とされる72週とするため、2週の実習期間の延長について教務委員会とクリニカルクラークシップ専門委員会で検討中である。カリキュラム評価委員会からも診療参加型臨床実習の期間を十分に確保することの必要性について議論し、各診療科の実習期間および期待される技能の習得のために実習期間や実習内容の見直しが必要であることがカリキュラム委員会に報告された。（資料2-21）。

・診療参加型臨床実習72週への移行を受け、チュートリアル教育の改編を検討した（資料2-22）。

・カリキュラム評価委員会からの提言を受け、カリキュラム委員会において診療参加型臨床実習の期間に関して議論を行い、次回のカリキュラム改編の際に72週にするように教務委員会に提言することが確認された（資料2-23）。

今後の計画

・診療参加型臨床実習のカリキュラムがモデル・コア・カリキュラム（令和4年度版）に準拠するよう、コアカリに即した講義単位適正化検討WGが設置されることが決定した（資料2-24）。

・診療参加型臨床実習72週への移行を受け、令和7年度からチュートリアル教育の改編を実施する予定である。

・カリキュラム委員会で作成された診療参加型臨床実習72週化への移行スケジュールが実現できるように、クリニカルクラークシップ専門委員会で議論を進め、実施に向けての準備を進めている。

改善状況を示す根拠資料

（資料2-21）クリニカルクラークシップ専門委員会 議事概要 2024.7

（資料2-22）2025-2026年度チュートリアル教育について（報告）

（資料2-23）カリキュラム改編の進捗状況について

（資料2-24）医学科教務委員会事項書 2025.3

質的向上のための水準: 適合

特記すべき良い点(特色)

・なし

改善のための示唆

・臨床医学教育カリキュラムを科学および臨床医学の進歩、将来において必要となることに関して、調整・修正することが望まれる。

改善状況

・地域医療構想に基づく将来の医療に必要となることを学ぶ機会として、第4学年臨床実習前集中講義に医師会および行政関係者による授業を継続して行っている（資料2-4）。

・地域包括ケアの拡充に伴い需要が増加すると予測される総合診療、リハビリテーション医学の教育の強化に取り組んでいる（資料2-25、2-26）。

・第6学年で行われる選択型臨床実習（エレクトィブ実習）において、名張市立病院、市立伊勢総合病院、志摩市民病院、みたき総合病院、紀南病院での12-18週間の実習が選択可能となっている（資料2-27）。

・診療参加型臨床実習のカリキュラムがモデル・コア・カリキュラム（令和4年度版）に準拠するよう、コアカリに即した講義単位適正化検討WGが設置されることが決定した（資料2-24）。

今後の計画

・カリキュラム評価委員会が定期的に現行カリキュラムの評価を行い、カリキュラム委員会がカリキュラムの改善案を立案し、教務委員会と関連する教育専門委員会とが協力して、科学および臨床医学の進歩に対応した臨床医学教育カリキュラムを実施する。

改善状況を示す根拠資料

（資料2-4）2024年度 医学科4年生 臨床実習前集中講義 講義計画予定表

（資料2-24）医学科教務委員会事項書 2025.3

（資料2-25）三重大学医学部総合診療教育開発センター規程

（資料2-26）リハビリテーション医学

（資料2-27）第6学年エレクトィブ実習（家庭医療）

2.6 プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準:適合

特記すべき良い点(特色)

・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

・教員、学生、事務職員、関係教育病院代表者などが委員として参画するカリキュラム委員会の活動を継続的に行っている（資料1-15、2-28）。

・医学教育ワーキンググループによりディプロマポリシーに対する評価可能なコンピテンシーが作成され、承認された（資料1-1）。

今後の計画

・カリキュラム評価委員会による現行カリキュラムの評価を受け、カリキュラム委員会による新カリキュラム作成の議論が開始された。今後、継続して議論を行い、カリキュラムの改編につなげていく。

改善状況を示す根拠資料

- (資料 1-1) ディプロマポリシーに対するコンピテンシー
- (資料 1-15) 三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2025. 3
- (資料 2-28) 2024 年度 カリキュラム委員会名簿

質的向上のための水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための示唆

- ・基礎医学での水平的統合と、基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合を一層充実させることが望まれる。

改善状況

- ・第1学年で行われる医療と社会において、基礎医学および臨床医学の教員が、行動科学に関する授業を行っている(資料 2-11)。
- ・臨床実習前集中講義において、補完医療に関する講義が行われている(資料 2-4)。
- ・カリキュラム委員会による新カリキュラムの議論が行われ、水平統合・垂直統合を推進する方向でカリキュラム改編を進めることが確認された。基礎医学教育専門委員会で、水平統合・垂直統合の授業案の募集と議論が行われ、先行して系統解剖実習に外科系の教員が参加することで垂直統合を行うことが決定された(資料 2-17)。

今後の計画

- ・系統解剖実習に、臨床系教員が参加することで、部分的に垂直統合がなされた実習を実施する予定である。
- ・カリキュラムの2/3が、モデル・コア・カリキュラム(令和4年度版)に準拠しているのかの確認を“コアカリに即した講義単位適正化検討WG”主導により行い、不適切な点があれば指摘し、改善を促す予定である。
- ・カリキュラム評価委員会からの報告をもとに、カリキュラム委員会がカリキュラムの改善案を立案し、教務委員会がカリキュラムの改善に取り組む。

改善状況を示す根拠資料

- (資料 2-4) 2024 年度 医学科4年生 臨床実習前集中講義 講義計画予定表
- (資料 2-11) 2024「医療と社会：行動科学と心理」 日程・担当者一覧
- (資料 2-17) 基礎医学教育専門委員会議事録 2024. 12

2.7 プログラム管理

基本的水準:適合

特記すべき良い点(特色)

- ・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。

今後の計画

・現在の状況を後退させることがないように、担当部門での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つカリキュラム委員会に、広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。

改善状況

・各学年の学生代表や外部の有識者を委員に含むカリキュラム評価委員会が設置され、定期的に委員会を開催し、現行カリキュラムの評価が行われている（資料1-7）。

・各学年の学生の代表者や外部の有識者が参加するカリキュラム委員会が設置され、カリキュラム改編に向けた議論が継続して行われている（資料1-15）。

今後の計画

・教育カリキュラムの実施に責任と権限を持つ委員会である教務委員会には、広い範囲の教育の関係者の代表が含まれており、今後もその体制を継続する。

・各学年の学生代表、研修医や外部の有識者を委員に含むカリキュラム評価委員会を定期的に行う。

・学生代表や外部の有識者を委員に含むカリキュラム委員会を定期的に開催し、教育関係者の複合的な視点から望まれるカリキュラムの立案を目指す。

改善状況を示す根拠資料

（資料1-7）■ 三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2025.2

（資料1-15）■ 三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2025.3

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

・医師会の協力を得て「国民健康保険」に関する授業を臨床実習前の学生を対象に実施している（資料 2-4）。

今後の計画

・医療保険制度を学ぶ授業を継続して実施することを計画する。

改善状況を示す根拠資料

（資料 2-4） 2024 年度 医学科 4 年生 臨床実習前集中講義 講義計画予定表

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・卒業生が将来働く環境からの情報を得て、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。

改善状況

・カリキュラムの評価を行うカリキュラム評価委員会には、地域の臨床研修病院を代表する指導医、臨床研修・キャリア支援部の大学教員、学生代表が委員として参画し、学外からの目線で本学のカリキュラムに関する意見を募りやすい環境を整備している（資料 2-30、2-29）。

・1 年生の必修の講義として、医師のキャリア教育に関する授業を行っている（資料 2-10）。

・近い将来のキャリア支援に関する授業を学生支援・キャリア教育センターの教員が行っている（資料 2-10）。

・カリキュラム委員会において、卒業生が将来働く環境からの情報を含めた IR の重要性が共有され、卒業生の現状の追跡方法について議論がなされた（資料 1-15）

今後の計画

・教員と学生が参加し、第 1, 3, 5 学年で行われる語る会に初期研修医の参加を計画している。

・何年かに一度、学生の就職先に対してアンケートを行っているがそれを強化していく。

・現在、将来のキャリア支援に関する話を学生に対してキャリア支援センターで行っており、今後も継続していく。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-15） 三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2025. 3

（資料 2-10） ウェブシラバス（キャリア教育入門）

（資料 2-29） 三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会規程

（資料 2-30） 2024 年度 カリキュラム評価委員会名簿

3. 学生の評価

3.1 評価方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

- ・全ての授業科目のウェブシラバスに、評価の原理、方法および実施について記載すべきである。
- ・臨床実習の評価において mini-CEX などを積極的に導入すべきである。
- ・評価における利益相反を明文化すべきである。
- ・評価は外部の専門家によって精密に吟味されるべきである。

改善状況

・臨床実習での学生の臨床能力を客観的に評価するため、多角的な評価方法として令和 5 年 1 月開始の第 4 学年より CC-EPOC を導入した。導入にあたり各科で別々であった評価票も全診療科で共通化し評価の標準化を図った。評価表の評価項目については医学教育モデル・コア・カリキュラムを参考にし、1. 医学知識は各診療科が担当する PS 領域、2. 医療面接では CS-01-01：医療面接、3. 身体診察、臨床手技では CS-01-02：身体所見、CS-03-01：検査手技、CS-03-02：治療手技、CS-03-03：救急・初期対応、4. 検査結果の解釈、5. プレゼンテーションでは各診療科が担当する PS 領域、6. 診療録では CS-02-01：診療録記載、7. 学習資源では GE-01-04：根拠に基づいた医療（EBM）、8 患者との関係では CM-01：患者に接する言葉遣い・態度・身だしなみ・配慮、9、医療従事者との関係では IP-01-02：職種間コミュニケーション、10. 実習態度では PR-01：信頼、PR-02：思いやりを評価するものとして設定した。（資料 3-1）

・外部委員を含むカリキュラム評価委員会を立ち上げ、学生評価の方法とその妥当性、信頼性について評価を受ける体制を整備した。

・令和 5 年度にディプロマポリシーの見直しを行い、令和 6 年度は対応する評価可能なコンピテンシーを策定した。（資料 1-1）

・基礎医学について学生への負担を考慮し試験間隔の変更を行った。（資料 2-13）

・2 年生から 3 年生への進級基準を見直した。

今後の計画

・全授業科目でウェブシラバスへの評価方法に関する具体的情報の記載を行うことを計画する。

・今後 CC-EPOC 内の mini-CEX 等の評価ツールについて利用の拡大を予定している。

・臨床系教員を対象にした臨床能力評価をテーマにした FD 研修会を計画する。

- ・今後臨床研修後 OSCE の評価者に実習担当施設の指導医の参加を検討する。
- ・すべての授業科目で、学生評価における教員の利益相反に関する規則を制定する。
- ・コンピテンシーについて議論を深め、それぞれのコンピテンシーを測定するカリキュラムをカリキュラム委員会にて個別に決定し、評価方法を設定しウェブシラバスへ記載する予定である。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-1）ディプロマポリシーに対するコンピテンシー

（資料 2-13）医学科教務委員会議事概要 2024. 12

（資料 3-1）CC-EPOC 評価票・評価基準

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。
- ・外部評価者の活用を進めることが望まれる。

改善状況

- ・医学・看護学教育センター内に試験解析システムを導入し、チュートリアル教育、卒業試験での試験問題解析（正当率と識別指数の算出、成績分布表の作成）を行い、試験の妥当性評価を行っている（資料 3-2）。
- ・卒業試験の信頼性と妥当性を検証し向上させる目的で、試験問題作成担当教員を対象にした研修を継続して実施している（資料 3-3）。
- ・前述の通り臨床実習（学外実習機関を含む）での評価の標準化のため CC-EPOC を導入した。全診療科共通の評価表を作成し、学外実習期間での評価もこれを用いて開始している。
- ・臨床実習においては学外実習期間で外部評価者の評価を受けている。地域実習、早期体験実習に関しても外部評価者の活用を推進している。（資料 3-4）
- ・IR 部門の立ち上げに関する議論を開始した。

今後の計画

- ・試験実施後には、出題者に対して解析結果のフィードバックを行うとともに、試験問題の解析結果を学生に開示し、学生からのフィードバックを受けることを計画する。
- ・外部評価者（学外実習）の活用推進とともに評価の信頼性向上、標準化に向けた FD 研修会を行うことを計画する。
- ・卒業試験に関して正当率と識別指数の解析を行い、正答率、識別指数の著しく悪い問題を削除し問題数の適正化を行った。
- ・教育センター内に IR 部門を立ち上げ今後様々な評価に関する検証を行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

（資料 3-2）卒業試験 得点分布図

（資料 3-3）2024 年度 卒業試験専門委員会名簿

（資料 3-4）2024 年度地域基盤型保健医療教育実習（伊賀市）

3.2 評価と学修との関連

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

- ・学修の進捗に対応して、学修成果の到達度を評価するための基準を定め、学生を評価すべきである。
- ・形成的評価の有効的な利用を検討すべきである。

改善状況

- ・チュートリアル教育においては、チュータータイム毎に提出されるポートフォリオの確認作業を通じて学生に対する形成的評価を実施している（資料 3-5、3-6、3-7）。
- ・学修の進捗に合わせた学修成果の到達度評価に関する課題を教務委員会で共有し、改善計画を立案する方針を確認した。
- ・形成的評価の有効的活用に関する課題を教務委員会で共有し、改善計画を立案する方針を確認した。
- ・臨床実習参加学生を対象に 3 月と 7 月の臨床医学実力試験を実施し、臨床医学の履修状況を確認するとともに、成績不振者に対しては、メンター教員を配置し、継続的な形成的評価と学習指導を実施している（資料 3-8、3-9）。
- ・臨床実習のマイルストーンとして、経験すべき医行為について Moodle 上で記入可能な形の Excel ファイルとして公開し、卒業のための基準としても使用した（資料 3-10）。
- ・基礎医学に関して、総合的な知識を問う試験の実施に関して議論を開始した。（資料 3-11）

今後の計画

- ・カリキュラムマップのなかに学習課程のマイルストーンを設定し、その時点での学修成果の到達度を評価する基準を定めることを計画する。
- ・授業科目単位での形成的評価のあり方を検討するとともに、教務委員会で学生の学修意欲を高める形成的評価の方針を定める。
- ・個々の学生の学習状況と学修成果の進捗に対し形成的評価を行い、その内容を記録することで学生の学修を長期的、かつ継続的に支援する方策を検討する。
- ・3 月と 7 月の臨床医学実力試験を正式なカリキュラムへ移行し、形成的評価を行う。
- ・教務委員会で形成的評価についての議論を開始する。
- ・チュートリアルにおけるポートフォリオ評価に関してルーブリックを用いた形成評価を行う事について議論する。

- ・形成評価を効率的に行うために LMS の活用を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 3-5）2024 ポートフォリオ記載要領
- （資料 3-6）サンプルポートフォリオ（1）
- （資料 3-7）サンプルポートフォリオ（2）
- （資料 3-8）卒業試験資格認定試験 2024.7
- （資料 3-9）2024 年度卒業試験専門委員会 懸案事項
- （資料 3-10）経験記録表
- （資料 3-11）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2024.6

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善状況

・カリキュラム委員会を立ち上げ、授業単位の試験の回数と方法の妥当性について議論する準備を整えた。学習の負の効果を避けるため、カリキュラム委員会に学生委員も参加し、カリキュラムの適正化についての議論を開始した。具体的にはカリキュラム委員会からチュートリアル委員会へ向けチュートリアルの再編成、試験回数の適正化について提言し計画した（資料 2-22）。研究室研修については、1 年前期に基本的事項の教育、レポート提出を行い形成的評価を行った後、後半の研究室研修で統合的学習を実践するカリキュラムの変更を行った。

- ・臨床実習においては全科共通の評価ルーブリック表を作成し評価を開始した（資料 3-1）。
- ・基礎医学教育専門委員会において学生へのフィードバックに関する議論を行った。

今後の計画

・授業単位での評価実施状況を調査し、評価方法や評価基準の適正化に向けて検討することを計画する。「国債保健と地域医療」に関し、ブループリントの見直しを行い、次年度の評価方法、基準の適正化を行う予定である。

・統合的学修を促進するため、統合的学修に関する学修項目を設定し、適切に評価するための方法（パフォーマンス評価、観察記録、ポートフォリオ、ルーブリックなど）の導入について検討する。

- ・教員の統合的評価の必要性に対する理解を高めるため、FD 研修会を計画する。
- ・カリキュラム評価委員会から評価のあり方に関する評価と助言を受け、教務委員会が、授業単位での試験の回数と方法の適正化を図る。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 3-1）CC-EPOC 評価票・評価基準
- （資料 2-22）2025-2026 年度チュートリアル教育について（報告）

4. 学生

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・推薦入試（地域枠 B 選抜）では、出身高等学校長に加え、出身自治体の長、出身地域の医療を担う医療機関の病院長からの推薦を求めている。

改善のための助言

・なし

改善状況

・医学科入試委員会を中心に、適切な入学者選抜方針の提示と入学者選抜方法の実施に継続して取り組んでいる（資料 4-1(部外秘)）。

・文部科学省の方針に沿った入試改革に対しては、医学科入試委員会が、全学入試委員会、アドミッションセンター（入試チーム）と連携し対応している（資料 4-1(部外秘)）。

・地域枠入学者選抜制度の実施・変更については、文部科学省が示す方針のなかで地域社会からの要請に応えられる制度の継続について検討している（資料 4-2、4-3）。

・地域枠制度の維持に関して、三重県庁および自治体からの要望を聴く機会を設けている（資料 4-4）。

・学生募集要項の「障害等のある入学志願者との事前相談について」を利用した入学前配慮申請事項を入学後の合理的配慮へと有機的に連携させる目的で、学生委員長が第 1 学年学生に対する対面形式の入学ガイダンスにおいて「障害のある学生に対する合理的配慮」について説明した。（資料 4-5、4-6）。

・令和 6 年度入試より地域枠 B に診療科指定を導入した。これは医療不足地域における需要が高く今後の地域医療体制の確保に必要な診療科（内科、外科、救急科、総合診療科）を指定するものである（資料 4-7）。

今後の計画

・現在の状況を後退させることなく担当部門での取組みを継続する。

・令和 9 年度入学者選抜（令和 8 年度実施）から「総合型選抜」を実施する。これは本学のアドミッションポリシーに合致し、地域・社会・世界とのつながりを通して、行動する力と、新たな価値を創出するマインドを持つ意欲ある人材を確保するため、多面的・総合的に評価する選抜である（資料 4-8、4-9）。

改善状況を示す根拠資料

（資料 4-1）全学入試委員会事項書 2024.4（部外秘）

（資料 4-2）令和 6 年度医学部臨時定員増に関する意向調査について

（資料 4-3）全学入試委員会事項書 2024.6（部外秘）

- （資料 4-4）令和 6 年度 第 4 回三重県地域医療対策協議会 事項書 2025. 3
- （資料 4-5）令和 7 年度学生募集要項 P13-14
- （資料 4-6）学生生活について（抜粋_合理的配慮）
- （資料 4-7）地域枠 B における診療科指定について
- （資料 4-8）令和 9 年度（令和 8 年度実施）入学者選抜における総合型選抜の実施について（予告）2024. 10
- （資料 4-9）医学部教授会資料 2025. 1

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・入学決定に対する疑義申し立て制度を策定することが望まれる。

改善状況

- ・全学入試委員会において疑義に対して適切に対応するためのフローチャートが作成された（内容非公表）。
- ・医学部もこの全学入試委員会において作成された疑義に対して適切に対応するためのフローチャート（内容非公表）に則して適切に対応している。

今後の計画

- ・入学決定に対する疑義申し立てに関しては、現在の状況を後退させることがないように、全学入試委員会の方針に基づき、医学科として適切に対応する。
- ・医学看護学教育センターに IR 部門を創設し、アドミッションポリシーの定期的見直しに資するデータの収集と解析を行う。これにより、選抜と、医学部の使命、教育プログラムならびに卒業時に期待される能力との関連を明らかにする。

状況を示す根拠資料

- ・なし

4.2 学生の受け入れ

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

改善状況

- ・2019 年度受審（2020 年 1 月）時の方針を継続する。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないよう、医学科入試委員会での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

改善状況

- ・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。
- ・医学部長が、定期的に行われている三重大学関係病院長会議に出席し、地域医療構想や診療科偏在についての情報共有を行っている（資料4-10）
- ・三重県の要請を受けて、令和6年度入試より地域枠Bに診療科指定を導入した。これは医療不足地域における需要が高く今後の地域医療体制の確保に必要な診療科（内科、外科、救急科、総合診療科）を指定するものである（資料4-7）。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないよう、医学科入試委員会での取組みを継続する。
- ・現行の実施体制を継続する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料4-7） 地域枠Bにおける診療科指定について
- （資料4-10） 三重大学医学部附属病院 関係病院長会議 HP

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・「学生なんでも相談室医学部分室」が有効に活用されている。
- ・上級生が下級生の成績不振者の学修支援を行っている。

改善のための助言

- ・低学年での学生の学修上の問題を支援する体制を、組織的に充実させるべきである。

改善状況

- ・教務委員会と学務課とが協力し、低学年学生の共通教育における履修届の提出状況、出席状況、単位取得状況などの情報を収集し、教務委員会が学修上の課題を持つ学生に対する早期介入を行なっている。
- ・医学科専門課程の履修状況に対して社会的、経済的、および個人的事情に課題のある学生については学務課が把握し、教務委員会と学生委員会／学生なんでも相談室とが情報共有

をしている。必要に応じ、教員や相談員が個別に対応している（資料 4-11）。

- ・第 1 学年学生に対しては、学務課と教務委員会、学生委員会／学生なんでも相談室とが緊密に連携し、入学後から早期に介入している（資料 4-12）。

- ・第 1 学年学生に対して、対面形式の入学ガイダンスにおいて学生委員会／学生なんでも相談室の教員が自己紹介し、連絡先を伝えている（資料 4-13）。

- ・第 1 学年学生に対しては学年担任教員の連絡先を伝えている。（資料 4-14）

- ・第 1 学年学生に対しては、対面式の入学ガイダンスにおいて、心や体の不調時に相談する学内、および、学外の相談先を紹介している（資料 4-13）

- ・学生なんでも相談室医学部分室担当教員が第 1 学年学生に対し、合理的配慮について紹介を「医療と社会」授業（少人数グループ学修）で行っている（資料 2-11）。

- ・全学の障害学生支援機構調整会議に学生委員長も参加し、全学障害学生支援センターとの連携を強化している。（資料 4-15、4-16）

- ・合理的配慮の必要な学生のうち、学科担当教員への追加説明が必要な学生については、学生委員長／なんでも相談室教員／学務課職員が直接、教員に対して説明を行ったり、合同会議を開催している。（資料 4-17）

- ・オンライン会議システムも併用し、教務委員長と学生委員長が月 1 回の学年代表学生との対面情報交換会を開催している（資料 1-16）。

- ・実習室を学生の自習室として利用できるようにしている。また、その管理・運営は学年代表学生が主体的に行っている。その際、学年代表が集まる月 1 回の定期会議に教務委員長／学生委員長も同席している（資料 1-16）

- ・学生なんでも相談室医学部分室担当教員が、第 1-2 学年の「医療と社会」授業においてメンタルヘルスの講義を実施している。少人数でグループ活動を行うことで、個々の学生の特性を把握し、全員の学生と会話している。その際、必要時の支援につながるよう相談室の存在や場所の周知に務めている。（資料 2-11）。

- ・地域基盤型保健医療教育実習が第 1・2 学年学生に行われており、医学科学生が数名ずつ、各地域に割り当てられてる。地域ごとに担当教員がつき、2 年にわたり、学生との間で綿密なやり取りが行われ、学生の状況を把握する機会となり、問題があれば実習担当部署と対応策を検討し、支援する。年に 1 度、実習についての FD があり、そこで担当教員全員が集まり、情報交換、学生への対応を議論している（資料 2-14、4-18）。

- ・学生と教員がワールド・カフェ方式のワークショップで、現在の社会的課題などについて語り合う機会を第 1、第 3、第 5 学年に設けている（資料 1-9、1-10、1-11）。

- ・チュートリアル教育では、授業開始時に上級生による模擬チュートリアルを実施し、下級生の少人数グループ学習への積極的参加を支援している（資料 4-19、4-20、4-21）。

- ・障害を有する学生に対する合理的配慮実施においては、障害を共有する範囲を申請者の同意に基づいて行うことで守秘の保障を行っている（資料 4-22）

今後の計画

- ・学生委員会、学年担任教員と学修支援担当部門との連携強化をさらに進める。
- ・新入生に対する修学上の支援に関するガイダンス、適宜の指導を継続して実施する。
- ・第1-2学年「医療と社会」授業の担当教員を増員することで、より手厚い学修支援体制を構築する。
- ・第1学年学生に対して、対面形式の入学ガイダンスにおいて2年生が履修登録方法を伝授する機会を設ける。
- ・障害のある学生に対する合理的配慮について、第1学年学生に対しては対面形式の入学ガイダンスにおいて、上級生に対してはメールを用いて、学生委員長が年度初めに継続的に周知する。
- ・障害のある学生に対する合理的配慮について学生委員長が教授会で継続的に説明する。

改善状況を示す根拠資料

- (資料 1-9) 医学部医学科第1学年「新入生と教員が語る会」 2026.6
- (資料 1-10) 医学部医学科第3学年「医学教育を語る会」 2025.2
- (資料 1-11) 医学部医学科第5学年「診療参加型臨床実習を語る会」 2024.1
- (資料 1-16) 学生有志と教務委員長・学生委員長の懇談会 2024.12
- (資料 2-11) 2024「医療と社会：行動科学と心理」 日程・担当者一覧
- (資料 2-14) 2024年度地域基盤型保健医療教育実習 報告会
- (資料 4-11) 障害学生支援センターHP
- (資料 4-12) 令和6年度医学科担当教員
- (資料 4-13) なんでも相談室（新入生ガイダンス）
- (資料 4-14) Moodle_医学部医学科 1年生（2024年度）
- (資料 4-15) 令和6年度 障害学生支援調整会議名簿
- (資料 4-16) 令和6年度第1回障害学生支援調整会議 事項書
- (資料 4-17) 合理的配慮対象学生について
- (資料 4-18) 地域基盤型保健医療教育 FD研修会 事項書
- (資料 4-19) チュートリアル教育 先輩からのアドバイス1
- (資料 4-20) チュートリアル教育 先輩からのアドバイス2
- (資料 4-21) 模擬チュートリ、討論記録例
- (資料 4-22) 合理的配慮_情報の共有に関する同意書【見本】

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

改善状況

- ・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。
- ・講義「医学生のキャリアパス」を1年次の「行動科学と心理」科目において行っている（資料2-11）
- ・学生支援を担当している学年担任は、全ての学年に対し基礎系教員と臨床系教員を1名ずつ配置し、学修上の進度に合わせた支援を行えるようにしている。（資料4-12）
- ・教務委員会に、学生支援担当の学生委員長も参加することで、基礎系医学教育専門員会やクリニカルクラークシップ委員会などと連携している。これにより、学修上の進度に合わせた支援を行える体制になっている。（資料4-23）
- ・障害を有する学生に対する合理的配慮の実施において、教務委員会で学生委員長とクリニカルクラークシップ委員会委員長が情報共有することで、学修上の進度が進んでも障害への配慮が滞らないようにしている。（資料4-24）
- ・「MMC 卒後臨床研修センター」と専門医資格取得を支援する「三重県地域医療支援センター」の理事長およびセンター長を、三重大学医学部附属病院院長（医学部教授）が兼務することで、キャリアガイダンスなどの支援をシームレスに実施できる体制になっている（資料4-24）。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないよう、医学科教務委員会と学生委員会による取組みを継続する。
- ・医学部と MMC 卒後臨床研修センターならびに三重県地域医療支援センターの連携を強化することで、学生へのキャリアガイダンスやプランニング支援を充実させる。

改善状況を示す根拠資料

- （資料2-11）2024「医療と社会：行動科学と心理」 日程・担当者一覧
- （資料4-12）令和6年度医学科担当教員
- （資料4-23）2024年度医学科教務委員会名簿
- （資料4-24）MMC 卒後臨床研修センターおよび三重県地域医療支援センター HP

4.4 学生の参加

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・使命の策定、教育プログラムの管理、学生に関する諸事項を審議する委員会等に学生の代表が参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行すべきである。

改善状況

- ・カリキュラム委員会およびカリキュラム評価委員会を創設し、全学年代表学生が参加している（資料2-28、2-30）。

- ・学年代表学生と教務委員長・学生委員長が月1回の意見交換会を対面形式で開催している（資料1-16）。
- ・教務委員長／学生委員長と学年代表学生との定期的な情報交換会が月1回開催されていることを、入学ガイダンスで1年生に紹介し、この会への参加希望者を募っている（資料4-25）。
- ・第1・第3・第5学年学生全員と教員代表が合同でワールド・カフェ形式を開催し、社会的課題について語り合っている（資料1-9、1-10、1-11）。
- ・学生委員長とクラブ・サークル代表者との意見交換の場を定期的に設けている（資料4-26）。
- ・医学部医学科の学生代表者が、学生の多様な意見を引き出し大学運営に反映するために設けられた三重大学主催の学生代表者会議（翠陵ミーティング）や学生支援サミットに参加している（資料4-27）。

今後の計画

- ・学生からの要望を聴きながら、学生の意見・要望を反映する機会の継続的な改善に取り組む。
- ・三重大学医学部医学科カリキュラム委員会およびカリキュラム評価委員会に参加している学生の意見を反映する取り組みを継続する。
- ・使命の策定、教育プログラムの管理運営、学生の社会生活・課外活動に対する学生の参加状況に関して、カリキュラム評価委員会からの評価と助言を受け、教務委員会と学生委員会での継続的な改善に取り組むことを計画する。
- ・学生に関する諸事項を審議する学生委員会への学生の参加は認めていないが、学生と教務委員長・学生委員長が意見交換している会で出された学生の意見を学生委員会に反映し、必要時には学生にも学生委員会に参加する機会を設ける。

改善状況を示す根拠資料

- （資料1-9）医学部医学科第1学年「新生と教員が語る会」 2024.6
- （資料1-10）医学部医学科第3学年「医学教育を語る会」 2025.2
- （資料1-11）医学部医学科第5学年「診療参加型臨床実習を語る会」 2024.11
- （資料1-16）学生有志と教務委員長・学生委員長の懇談会 2024.12
- （資料4-25）2024年度新生ガイダンス（学年連絡会）
- （資料4-26）令和6年度クラブ・サークル連絡会の開催について（4月開催分）
- （資料4-27）令和5年度 国立大学法人三重大学 年間計画 P6
- （資料2-28）2024年度 カリキュラム委員会名簿
- （資料2-30）2024年度 カリキュラム評価委員会名簿

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

改善状況

- ・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。
- ・三重県チャイルド・デス・レビューモデル事業の運営に学生が協力している（資料4-28）
- ・三重大学が公募した「地域拠点サテライトを活用した地域共創プロジェクト」に応募するために、学生自らが計画・実行する地域活動プロジェクト案を作成した（資料4-29）

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないよう、取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料4-28）令和6年度三重県予防のための子どもの死亡検証体制整備モデル事業
- （資料4-29）（公募資料）令和7年度 地域拠点サテライトを活用した地域共創プロジェクトの提案について

5. 教員

5.1 募集と選抜方針

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

- ・新規教員の募集と選抜方針を策定すべきである。

改善状況

- ・事務部門において、新規教員の募集と選抜方針に関する規程の確認作業と課題の抽出を行った。

今後の計画

- ・新規教員の募集と選抜方針の検討を継続している。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・地域医療を重視するという使命に沿い、教員を募集・採用している。

改善のための示唆

- ・指導的立場に就く女性教員の割合を増やすことが望まれる。

改善状況

- ・地域医療に貢献する人材の養成に必要な教員の募集として、文科省による令和4年度「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に採択された「黒潮医療人養成プロジェクト」（三重大学・高知大学・和歌山県立医科大学合同プロジェクト）に従い、教員の採用を実施した（資料2-3、5-1）。
- ・三重大学がすすめるダイバーシティ&インクルージョン（多様性とその受容）推進宣言（2022年）では、学生・教員が互いの個性を理解し、尊重し合う大学を目指せるようにアクションプランを設定している。その中で女性教員、若手教員とともに、指導的立場に就く女性教員として意思決定機関や教授・准教授に占める女性割合の目標数値を定めている。（資料5-2、5-3、5-4、5-5、5-6）
- ・三重大学ダイバーシティ・インクルージョン推進室を医学部内に新たに設置し、活動を開始した（資料5-7、5-8、5-9）。
 - ・指導的立場に就く女性教員の割合増加に向けて、就業をサポートする活動を実施している。（資料5-10、5-11、5-12、5-13、5-14、5-15、5-16、5-17）
 - ・附属病院のホームページ上に、「業務支援ポータルサイト」を開設し、三重大学や三重県などからの支援情報を容易に入手できる情報環境を整備している（資料5-13）。
 - ・2018年から2024年までの女性教員の推移を示す（資料5-14）。

今後の計画

- ・指導的立場に就く女性教員の割合増加に向けての有効な方策を検討し、実施することを計画する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料2-3）令和6年度事業報告書（黒潮医療人養成プロジェクト）
- （資料5-1）医学部ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業による大学教員の人事異動について
- （資料5-2）三重大学医学部附属病院における女性職員の活躍推進のための指針
- （資料5-3）三重大学ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言
- （資料5-4）三重大学ダイバーシティ&インクルージョン推進計画
- （資料5-5）「三重大学ダイバーシティ&インクルージョン推進計画」に基づくアクションプラン
- （資料5-6）三重大学年次報告書2024 P16
- （資料5-7）三重大学大学院医学系研究科・医学部ダイバーシティ・インクルージョン推進室名簿
- （資料5-8）三重大学大学院医学系研究科・医学部ダイバーシティ・インクルージョン推進室規程
- （資料5-9）2025年2月ダイバーシティ・インクルージョン推進室会議報告
- （資料5-10）ワーク・ライフ・バランス応援ハンドブック2024

- （資料 5-11）子育て医療従事者支援相談
- （資料 5-12）令和 6 年度 医学生・研修医等をサポートするための会
- （資料 5-13）三重大学病院ポータルサイト
- （資料 5-14）女性教員数の推移
- （資料 5-15）令和 6 年度新任教員研修の実施について
- （資料 5-16）2024 年度女性部交流会
- （資料 5-17）2024 年度女性部交流会報告記事

5.2 教員の活動と能力開発

特記すべき良い点（特色）

- ・教員の教育、研究、診療の活動における学術的業績に基づき、表彰や改善指導を行う制度を整備している。
- ・教員評価に係る PDCA 自己申告書と基礎データ入力シートを基に教員としての業績を評価し、任期更新の可否を審議している。

改善のための助言

- ・個々の教員はカリキュラム全体を十分に理解したうえで教育を担当すべきである。
- ・医学部医学科カリキュラムの全体像についての FD 研修会を活性化し、参加者を増やすべきである。
- ・新任教員に対する、FD 研修会を開催すべきである。

改善状況

- ・医学部教育貢献賞に加えて、臨床実習・臨床研修における教育貢献が顕著な附属病院医師を対象にした附属病院教育貢献賞制度を実施している。（資料 5-18）
- ・令和 5 年度に基礎研究、臨床研究等について顕著な功績があった教員を対象とした医学部・大学院医学系研究科研究貢献賞制度と、地域貢献に顕著な功績があった教員を対象とした地域活動貢献賞制度を設けた。（資料 5-19、5-20、5-21、5-22）。
- ・教員評価に係る PDCA 自己申告書と基礎データ入力シートの見直しを行い、内容の充実を図った（資料 5-23）。また次年度より PDCA 自己申告書を見直すため、構築作業を行っている（資料 5-24）。
- ・次年度新任教員向け研修会を実施した（資料 5-15）。
- ・学生評価（OSCE、CBT）の際に、事前に担当教員用の FD 研修会を行い、教員がカリキュラム全体を理解するように努めた（資料 5-25）。同様に、Tutorial 教育を担当する教員を対象に、事前に FD 研修会を行い、教員の質の向上に努めた（資料 5-26）。

今後の計画

- ・これまでも実施してきた授業単位での FD 研修会に加えて、カリキュラム全体を理解する FD 研修会を計画し実施する。PDCA 自己申告書の見直し中であり、新たな評価方法を構築する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 5-15）令和 6 年度新任教員研修の実施について
- （資料 5-18）三重大学医学部・大学院医学系研究科教育貢献賞に関する内規
- （資料 5-19）三重大学医学部・大学院医学系研究科研究貢献賞に関する内規
- （資料 5-20）三重大学医学部・大学院医学系研究科地域活動貢献賞に関する内規
- （資料 5-21）三重大学医学賞，三重大学病院賞及び三重大学病院教育賞の推薦について
- （資料 5-22）三重大学医学賞及び三重大学病院賞表彰取扱要領
- （資料 5-23）PDCA 自己申告書
- （資料 5-24）PDCA 自己申告書 新評価項目
- （資料 5-25）FD 参加資料（CBT, OSCE）
- （資料 5-26）FD 参加資料（PBL-Tutorial 教育）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

改善状況

- ・ 2019 年度受審（2020 年 1 月）時の方針を継続する。
- ・ カリキュラム全体を見直し、基本的臨床技能教育の時期と内容を再考し、教員の適正化のため再分配を行った（資料 5-27）。
- ・ Tutorial 教育のカリキュラム全体を見直し、新たに授業数および教員数を再考し、適切な教員の配置をこころがけた（資料 2-22）。
- ・ 2 年生を対象に授業に対するアンケートを複数回実施し、担当教員と学生との対話時間を設けている。学生と教員間での双方向での意見交換を通じて、相互理解を深めるとともに学生・教員の質的向上を目指した（資料 5-28）。

今後の計画

- ・ 現在の状況を後退させることがないよう、取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 2-22）2025-2026 年度チュートリアル教育について（報告）
- （資料 5-27）令和 7 年度基本的臨床技能教育の時期と内容について
- （資料 5-28）授業アンケートに関するお願い

6.1 施設・設備

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

- ・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。
- ・2023年9月23日に「最大規模の布引山地東縁断層帯地震」を想定した多数傷病者受入訓練を実施。医学科5年生の臨床実習の一環として121名が参加した。又、ファシリテーターとして医学科3年生3名が参加した。又、その中では、自身が被災者になった際のイメージ獲得を目的にVR技術を用いた津波被災体験を行った。2024年9月28日にも同様の訓練を行った。（資料2-3、6-1）
- ・令和6年4月1日より労働安全衛生規則等の一部を改正する省令（令和4年厚生労働省令第91号）（化学物質による労働災害防止のための新たな規制）に伴い、国立大学法人三重大学化学物質管理規程（令和6年4月1日施行予定）が適用されることとなる。このことから、三重大学では化学薬品の現状把握や関係法令に該当する化学薬品を「化学薬品管理システム」にて管理されることとなり各部署への周知及びその説明会の為の講習会が開催された（資料6-2、6-3）。
- ・学生の交流の場としての先端医科学教育棟1Fアメニティスペースの整備を行った（資料6-4）。
- ・敷地内薬局内臨床実習生スペースの完備を予定している（資料6-5）。

今後の計画

- ・解剖実習時の電子機器ロッカーの設置を計画している（資料6-6）。
- ・医学部のクラブハウスの改修を計画している。

改善状況を示す根拠資料

- （資料2-3）令和6年度事業報告書（黒潮医療人養成プロジェクト）
- （資料6-1）2024年度多数傷病者受け入れ訓練
- （資料6-2）化学薬品管理システム講習会の開催について
- （資料6-3）化学物質管理規定に関する学生・教職員への周知のためのチラシ.pdf
- （資料6-4）先端医科学教育研究棟1Fアメニティスペースの整備について
- （資料6-5）敷地内薬局内実習生スペースについて
- （資料6-6）解剖実習時電子機器ロッカーの設置場所について

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

改善状況

・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。

今後の計画

・現在の状況を後退させることがないよう、担当部門での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

6.2 臨床実習の資源

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・学生が適切に臨床経験を積めるという観点から、臨床実習施設の患者数と疾患分類を把握すべきである。

改善状況

- ・主たる教育病院である医学部附属病院の患者数を把握している（資料6-7）。
- ・令和5年1月よりCC-EPOC導入を開始した（資料3-1、6-8）。
- ・主な臨床実習施設の患者数・疾患分類の把握を行った（資料6-9）。

今後の計画

・個々の学生が経験した疾患の把握に向けてCC-EPOCを活用していく方法をクリクラ委員会で検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- （資料3-1）CC EPOC 評価票・評価基準
- （資料6-7）三重大学医学部附属病院概要 2024 P16-19
- （資料6-8）CC-EPOC 評価等入力方法（教員用）
- （資料6-9）関連施設疾患分類（主な臨床実習施設の病院年報 URL）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

改善状況

- ・臨床実習を担当するクリニカルクラークシップ専門委員会において、臨床実習施設の状況の把握に努め、必要に応じ改善に向けての対応を行なっている（資料 6-10）。
- ・学外の臨床実習施設の状況を把握するため、窓口教員（学外実習を行う診療科のクリニカルクラークシップ専門委員会委員）を指名している（資料 6-11）。
- ・附属病院、および学外の関係教育病院の地域社会における役割や活動理念に関する資料を収集し、卒後臨床研修評価機構（JCEP）の評価を元に、臨床実習実施医療機関としての適格性を評価した（資料 6-12）。

今後の計画

臨床実習施設の内、臨床研修基幹が 16 基幹あり、うち 10 基幹が JCEP を受審し認証を受けている。今後、JCEP 未受審の臨床研修施設に関しても受審を進めていく。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 6-10）各診療科における学外エレクトィブの受入意向調査について
- （資料 6-11）令和 6 年度クリニカルクラークシップ専門委員会名簿
- （資料 6-12）臨床実習施設の JCEP 認証一覧表（三重県）

6.3 情報通信技術

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

改善状況

・第 1-2 学年地域基盤型保健医療教育実習において、県下全市町村と大学とを繋ぐオンラインシステムを導入し、COVID-19 流行下でのオンラインによる地域実習を実施できる体制を継続している。本授業においては、情報管理に関する倫理教育も併せて実施している（資料 2-14）。

- ・情報通信技術の利用における倫理面での教育強化に関しては、
 - 1 年生の共通教育において（資料 2-18）
 - 3 年生の研究室研修前のガイダンスにおいて（資料 6-13）
 - 4 年生の臨床実習前のガイダンスにおいて（資料 6-14）

医療情報、個人情報保護 などに関する教育を行った。

- ・全学年パソコン必携化となり、講義室でのネット環境改善の為、総合情報処理センターにより回線の増強を行った。
- ・感染症疫学においてオンデマンド教材を利用した。（臨床実習前集中講義）（資料 2-4）

今後の計画

- ・オンライン授業の改善と充実、e-learning の積極的導入に向けて継続的に取り組む。

改善状況を示す根拠資料

- (資料 2-4) 2024 年度 医学科 4 年生 臨床実習前集中講義 講義計画予定表
- (資料 2-14) 2024 年度地域基盤型保健医療教育実習 報告会
- (資料 2-18) 2024 年度医学医療入門授業内容表
- (資料 6-13) 研究室研修ガイダンス (藤井先生講義資料抜粋)
- (資料 6-14) 令和 6 年度第 4 学年臨床実習ガイダンス

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点 (特色)

- ・PBL で、ICT を利用したピア評価が実施されていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・なし

改善状況

- ・2019 年度受審 (2020 年 1 月) 時の方針を継続する (資料 6-15、6-16)。

今後の計画

- ・教務委員会と教育専門委員会が協力し、現在の評価システムの安定的運用と改善に取り組む。

改善状況を示す根拠資料

- (資料 6-15) 2024 チュートリ教育準備教育ガイダンス (配布用)
- (資料 6-16) 令和 6 年度 Body+Interact の利用について

6.4 医学研究と学識

基本的水準：適合

特記すべき良い点 (特色)

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

改善状況

- ・2019 年度受審 (2020 年 1 月) 時の方針を継続する。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないよう、担当部門での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点 (特色)

・「研究室研修」では、学生全員に研究計画書、プロGRESSレポートの作成、成果の発表を英語で実施させ、優秀者には学会発表をさせていることは高く評価できる。

・「新医学専攻コース」では6年にわたって医学研究に取り組み、国際学会や国際的な科学雑誌に研究成果を発表していることは、高く評価できる。

改善のための示唆

・なし

改善状況

・研究室研修は、2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続するとともに実施した（資料6-17）。

・研究能力の涵養をさらに促進するため、研究室研修を3-4年次から1年次に移行することを決定した（資料1-4）。

今後の計画

・現在の状況を後退させることがないよう、担当部門での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

（資料1-4）研究室研修（2025年度）の改訂

（資料6-17）2023-2024年度プロGRESS発表会（抄録集抜粋）

6.5 教育専門家

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

・常勤の医学教育専門家は退官したがリサーチアソシエイトとしての立場で関りを継続しているため、引き続き教育専門家へのアクセスは保証されている。

今後の計画

・又、常勤医師で医学教育専門家取得のためのコースを受講中であり、医学教育専門家を取得予定である。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

改善状況

・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。

今後の計画

・現在の状況を後退させることがないよう、医学・看護学教育センターの活動を継続する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

6.6 教育の交流

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・第1学年から第5学年の「早期海外体験実習」、ならびに第6学年の「海外臨床実習」において、約半数の学生を海外に派遣し、また、海外の医学生を多数受け入れていることは高く評価できる。

改善のための助言

・なし

改善状況

・2022年度の海外大学との交流事業はCOVID-19流行拡大のため、一時休止せざるをえない状況であった。COVID-19流行収束後の再開に向けて、海外交流大学との継続的な連絡調整を行なった。そして、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、中断していた海外臨床実習を令和6年4月から再開することを決定した（資料6-18）。

・文部科学省 ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業（高知大学・和歌山県立医科大学・三重大学）の臨床実習相互受け入れで、2022年度2名、2023年度1名、2024年度2名の学生が他県で臨床実習を行った（資料2-3）。

・2023年3月1日、2024年3月2日、2025年3月8日にポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業の3大学合同シンポジウムを開催し、教員同士の交流、又、参加学生同士の交流が行われた。

・ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業において、2023年5月に高知県にて避難タワー見学、2023年8月1～2日に和歌山県の臨床実習施設へサイトビジットを行い教員同士の交流を行った（資料2-3）。

・ポストコロナ時代の医療人材養成拠点事業において、令和7年3月に合同シンポジウムを行い教員同士の交流、参加学生同士の交流を行った（資料2-3）

・2024年5月20日21日に高知県へサイトビジットを行い教員同士の交流、地域の指導医との交流を行った（資料2-3）

・ポストコロナ時代の医療人材養成拠点事業において、高知大学、和歌山県立医科大学、三重大学で臨床実習における単位互換を行っている。

・研究に興味がある学生向けの選択科目（1単位）「新医学専攻コース」があり、他大学からの特別聴講学生（非正規生・学生証等発行）として、そちらの科目を履修する準備を整えた。（資料 6-19）

今後の計画

2024 年度から早期海外体験実習、海外臨床実習、海外からの交換学生の受入れを再開しておりこれを継続する。

医学以外の語学留学等の機会も提供している（資料 6-20）。

改善状況を示す根拠資料

（資料 2-3）令和 6 年度事業報告書（黒潮医療人養成プロジェクト）

黒潮医療人養成プロジェクト HP (<https://kuroshio-pjt.com/>)

（資料 6-18）2024 年度海外臨床実習名簿

（資料 6-19）他大学学部生の研究実習受入について

（資料 6-20）学生の交換留学(派遣)について

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

改善状況

・2019 年度受審（2020 年 1 月）時の方針を継続する。

今後の計画

・現在の状況を後退させることがないよう、関連部門での取り組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

7. プログラム評価

7.1 プログラムのモニタと評価

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・教育課程と学修成果の情報を、定期的に収集する仕組みを設けるべきである。

・収集した情報をもとにカリキュラムを評価する仕組みを確立し、プログラム評価を実施すべきである。

- ・評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。

改善状況

- ・教育課程と学修成果の情報は、各教育課程を担当する教育専門委員会でモニタされ、その情報は教務委員会に報告されている（資料 1-8）。年度末には、各教育専門委員長から教務委員長に対して、一年間の委員会活動の総括と懸案事項が報告されている（資料 7-1）。
- ・カリキュラム評価委員会が活動を行っている（資料 7-2、1-7、2-30）。
- ・教育のアウトカムを実現するためのカリキュラムや令和 4 年度改定のコアカリキュラムに対応したカリキュラムをカリキュラム委員会が中心となり基礎医学委員会、チュートリアル教育専門委員会等専門委員会と協働し検討している（資料 1-15、2-28、7-3、7-4、2-22）。
- ・カリキュラム委員会では、新カリキュラム対応（授業計画・規定整備等）を行っている（資料 7-3）。

今後の計画

- ・カリキュラム委員会では、新カリキュラム（授業計画・規定整備等）を計画する（資料 7-4）。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-8） 令和 6 年度各専門委員会の懸案事項と活動計画
- （資料 1-7） 三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2025. 2
- （資料 1-15） 三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2025. 3
- （資料 2-22） 2025-2026 年度チュートリアル教育について（報告）
- （資料 2-28） 2024 年度 カリキュラム委員会名簿
- （資料 2-30） 2024 年度 カリキュラム評価委員会名簿
- （資料 7-1） 医学科教務委員会事項書 2025. 3. 5
- （資料 7-2） 三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会 事項書 2025. 2
- （資料 7-3） カリキュラム更新の進捗状況について
- （資料 7-4） 基礎医学教育専門委員会議事録 2025. 1

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 地域医療など教育活動が置かれた状況をモニタし、評価することが望まれる。
- ・ 教育方法、評価方法などカリキュラムの特定の構成要素についてもプログラムを包括的に評価することが望まれる。
- ・ 知識だけでなく、態度、技能などの長期間で獲得される学修成果についても検証し、プログラムを包括的に検証することが望まれる。

改善状況

- ・地域での実習においては、実習窓口となる行政機関の担当者からのフィードバックを受けている（資料 7-5）
- ・態度、技能などの長期間で獲得される学修成果を評価するため、医学部 IR 室の機能強化に取り組んでいる。
- ・カリキュラム評価委員会が活動をしている（資料 7-2、1-7、2-30）。
- ・プログラム検証のために CC-EPOC による評価システムを取り入れている（資料 3-1）。
- ・黒潮医療人養成プロジェクトに於いて、アンケート評価を用いたプログラム評価を行っている（資料 2-3）。

今後の計画

- ・各教育課程を担当する教育専門委員会と医学部 IR 室の協力の下、態度、技能などの長期間で獲得される学修成果を評価する方法の導入を計画する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-7）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2025. 2
- （資料 2-3）令和 6 年度事業報告書（黒潮医療人養成プロジェクト）
- （資料 2-30）2024 年度 カリキュラム評価委員会名簿
- （資料 3-1）CC-EPOC 評価票・評価基準
- （資料 7-2）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会 事項書 2025. 2
- （資料 7-5）令和 6 年度三重大学医学部地域基盤型保健医療教育実習にかかるアンケート結果概要

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・「教育委員会と学生との懇談会」や「医学教育について語る会」により学生からのフィードバックを受けている。

改善のための助言

- ・教育活動全般について教員と学生からの系統的にフィードバックを求め、それを分析し、確実に対応するべきである。

改善状況

- ・「医学教育について語る会」の内容は教務委員会で報告され情報共有と内容の検討が行われている（資料 7-6）。
- ・授業の質向上のために多くの学生の意見を聞くにあたって、全学が継続的に実施する授業評価アンケート実施結果を教務委員会で共有した（資料 7-7）。
- ・カリキュラム評価委員会の活動を開始した（資料 7-2、1-7、2-30）。
- ・モデル・コア・カリキュラムのフィードバックを得ようとしている（資料 1-15）

・「医療と社会」の一環として2年生学生と教員の定期的なミーティングを年に3回行っている（資料1-12）。

今後の計画

- ・カリキュラム評価委員会から教務委員会に対して教育活動全般に対する系統的なフィードバックを行う体制を整備することを計画する。
- ・現在不足している授業担当教員からのフィードバック体制の構築に必要な事項の検討を開始する。
- ・各専門委員会が独自に実施するアンケートや意見聴取の結果を教務委員会に報告、共有する機会を定期的に（最低年1回程度）設ける。

改善状況を示す根拠資料

- （資料1-7）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2025.2
- （資料1-12）医学科2年生と教員のミーティング
- （資料1-15）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2025.3
- （資料2-30）2024年度 カリキュラム評価委員会名簿
- （資料7-2）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会 事項書 2025.2
- （資料7-6）医学科教務委員会事項書 2024.4
- （資料7-7）「三重大学 学びの振り返り授業改善のためのアンケート」実施結果の共有について

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・フィードバックの結果を利用して、教育プログラムを開発することが望まれる。

改善状況

- ・各教育課程を担当する教育専門委員会からの報告や学生からの教員評価の結果を利用して、教務委員会と医学・看護学教育センターとが協力してプログラム開発を行う方針を確認した。
- ・医学科教務委員会、学生委員会、医学・看護学教育センターが中心となり「卒前医学教育を行う施設のためのダンディー大学学習環境評価—Dundee Ready Education Environment Measure (DREEM)—のアンケート」を年2回実施した（資料2-16）。
- ・全医学科学生を対象とする「学びの振り返り／授業改善のためのアンケート」を年2回実施している。

今後の計画

- ・カリキュラムに関連する委員会からのフィードバックを受け、教務委員会と医学・看護学教育センターとが協力して、教育プログラムの改定・開発を進めることを計画する。

・DREEM で収集した結果を分析し、教務委員会に報告することにより学習環境の改善に活用することを計画する。

改善状況を示す根拠資料

（資料 2-16）大学学習環境評価アンケート

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・学生と卒業生の実績を系統的に収集し、使命や学修成果の達成度、カリキュラムなどを分析すべきである。

改善状況

- ・医学部 IR 室による卒業生の臨床研修や勤務の状況を収集する体制の整備に取り組んでいる。
- ・全学組織である三重大学キャリアセンターの活動と連動し、医学科卒業生の状況調査を実施している（資料 7-8）。
- ・三重県地域医療対策協議会と協力し、地域卒学生の卒業後のキャリア調査と分析を実施し、地域卒卒業生の詳細な進路状況調査を開始した（資料 7-8、7-9、7-10、7-11、7-12）。
- ・全学で「学びの振り返り/授業改善のためのアンケート」を実施し、教務委員会で共有、対応策の検討がなされている（資料 7-7）

今後の計画

- ・医学部 IR 室で、卒業生の状況に関する調査の結果を医学科在籍中の成績評価等と関連づけて検討し、カリキュラムや教育方法に反映させることを計画する。
- ・地域卒学生の地域医療への貢献状況を解析し、医学科教育課程での地域卒学生に対する教育プログラムの改善を図ることを計画する。
- ・授業アンケートの内容を分析し、カリキュラムや教育方法に反映させることを計画する。
- ・CC-EPOC と PG-EPOC を活用し、それぞれの情報を関連づけることの実現可能性を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 7-7）「三重大学 学びの振り返り授業改善のためのアンケート」実施結果の共有につ
- （資料 7-8）就活アドバイザー制度によるキャリア支援のご案内
- （資料 7-9）三重県地域医療対策協議会 委員名簿
- （資料 7-10）令和 6 年度 第 4 回三重県地域医療対策協議会 事項書
- （資料 7-11）三重県地域医療支援センターキャリア形成プログラム（R7）
- （資料 7-12）三重県地域医療支援センターキャリア形成卒前支援プラン（R7）

いて

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・学生と卒業生の実績を分析するために、学生の背景と状況などを系統的に収集することが望まれる。
- ・学生の実績を分析し、カリキュラム立案について責任がある委員会へフィードバックすることが望まれる。

改善状況

- ・卒後研修部門と協力して卒業後の情報を収集し、系統的な解析を行なう体制の整備に取り組んでいる。
- ・カリキュラム委員会の活動を開始した（資料 7-13、1-15、2-28）。

今後の計画

- ・臨床研修キャリア支援部、NPO 法人 MMC 卒後臨床研修センター、三重県地域医療センターの協力を得て、医学部 IR 室での系統的な情報収集を進めることを計画する。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-15）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2025. 3
- （資料 2-28）2024 年度 カリキュラム委員会名簿
- （資料 7-13）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会 事項書 2025. 3

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・カリキュラムを評価するカリキュラム委員会と教育方針・教育の管理運営体制の評価を担当するカリキュラム管理委員会に、学生を含む主要な構成者を含んでいる。

改善のための助言

- ・なし

改善状況

- ・2019 年度受審（2020 年 1 月）時の方針を継続する。
- ・カリキュラム関連委員会の委員構成の見直し、委員会には、学生を含む主要な構成者を含め委員を構成した（資料 2-28、2-30）。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないよう、学生を含む主要な構成員の教育関連部門の活動への参画を促進する。

改善状況を示す根拠資料

（資料 2-28）2024 年度 カリキュラム委員会名簿

（資料 2-30）2024 年度 カリキュラム評価委員会名簿

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・卒業生の実績やカリキュラムに関するフィードバックを、広い範囲の教育の関係者に求める仕組みを有効に機能させることが望まれる。

改善状況

・カリキュラム委員会の活動を開始し、広い範囲の教育の関係者を組み入れた（資料 7-13、1-15、2-28）。

今後の計画

・学生委員からの積極的な意見を幅広く取り入れることを推奨する。また、カリキュラム委員会においてカリキュラム委員外からも議論のテーマ毎に幅広い役職の担当者が参加する。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-15）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2025. 3

（資料 2-28）2024 年度 カリキュラム委員会名簿

（資料 7-13）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会 事項書 2025. 3

8. 統轄および管理運営

8.1 統轄

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

・2019 年度受審（2020 年 1 月）時の方針を継続する。

今後の計画

現在の状況を後退させることがないよう、関連部門での取組みを継続するとともに、医学・看護学教育センターの部門を 6 部門から 8 部門へ改組し、質の高い医学教育の実現に向けた研究・開発及びその推進を行う（資料 1-5）。

改善状況を示す根拠資料

（資料 1-5）医学・看護学教育センター在り方検討 WG 答申

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 医学部の教務委員会などの各委員会において、学生を含む主な教育の関係者の意見をより反映させることが望まれる。

改善状況

- ・ 学生と教務委員との意見交換会、医学部クラブ・サークル連絡会（学生委員会と学生代表との意見交換の会）、臨床実習振り返りの会（学期末に開催）、学生と教員とがともに参加する医学教育を語る会など学生からの意見を聴き、学生の意見を委員会の活動等に反映する仕組みを構築している（資料 1-9、1-10、1-11、4-26）。
- ・ 幅広い職位の教員や職員が、教務委員会などの各委員会に委員として参加し意見を述べる機会を設けている。
- ・ 地域での実習においては、市町村の担当者からの意見を聴く工夫を行なっている。
- ・ 統合型教育の推進とモデル・コア・カリキュラムに準拠したカリキュラムを構築するにあたり、カリキュラムの評価を担うカリキュラム評価委員会の意見を反映させるために設置された学生や教職員を含む主な教育関係者を委員とするカリキュラム委員会を開催し、検討を進めている（資料 1-15、1-7、2-28、2-30、2-29、8-1）。
- ・ カリキュラム評価委員会とカリキュラム委員会は、教務委員会および各種教育専門委員会とともに PDCA サイクルを構築し、時代の要請を含む教学の品質を担保するフレームワークを形成している（資料 2-29、8-1、8-2、8-3）。

今後の計画

- ・ 学生や教職員を含む主な教育の関係者が委員であるカリキュラム委員会を開催し、医学教育の充実に向けた統合型教育の推進とモデル・コア・カリキュラムに準拠した新カリキュラムの原案を策定する。コアカリに関しては、コアカリに即した講義単位適正化検討WGを設置し、検討を進める。（資料 1-15、1-7、2-28、2-30、2-29、8-1）。
- ・ カリキュラム委員会が策定した新カリキュラムの原案をカリキュラム評価委員会において評価する（資料 2-29）。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-7）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会議事概要 2025. 2
- （資料 1-9）医学部医学科第 1 学年「新生と教員が語る会」 2024. 6
- （資料 1-10）医学部医学科第 3 学年「医学教育を語る会」 2025. 2
- （資料 1-11）医学部医学科第 5 学年「診療参加型臨床実習を語る会」 2024. 11
- （資料 1-15）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会議事概要 2025. 3
- （資料 2-28）2024 年度 カリキュラム委員会名簿

- （資料 2-29）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会規程
- （資料 2-30）2024 年度 カリキュラム評価委員会名簿
- （資料 4-26）令和 6 年度 クラブ・サークル連絡会の開催について（4 月開催分）
- （資料 8-1）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会規程
- （資料 8-2）教学の PDCA サイクル（カリキュラム評価委員会・カリキュラム委員会と教務関係部門との関係）
- （資料 8-3）三重大学医学部医学科教務委員会規程

8.2 教学における 執行部

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

改善状況

- ・2019 年度受審（2020 年 1 月）時の方針を継続する。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないように、関連部門での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・医学部の学修成果に照合したリーダーシップの評価を、より明確に行うことが望まれる。

改善状況

- ・教務委員会において教務委員会及び教務委員会の各専門委員会の懸案事項と対策について検討し共有を図っている。また、医学部教授会より教務委員会の懸案事項について評価と助言を受けている。（資料 8-4、8-5）
- ・医学部長は、教育を含む医学部における管理運営の状況を学長に報告し、学長からの評価を受けている（資料 8-6）。
- ・医学部執行部会議において、学修における管理運営の向上に資する協議を行っている（資料 8-7）

今後の計画

- ・上記の活動を継続するとともに、妥当性のある評価の実施に向けて継続的な検討を行う。

医学・看護学教育センターに IR 部門を設置し、IR データをリーダーシップの評価に活用していく。（資料 1-5）。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-5）医学・看護学教育センター在り方検討 WG 答申
- （資料 8-4）令和 6 年度医学科教務委員会の懸案事項
- （資料 8-5）令和 6 年度各専門委員会の懸案事項と活動計画（専門委員会のみ）
- （資料 8-6）大学教員個人評価における部局の長に対する取扱い
- （資料 8-7）医学部執行部会議事項書 2024. 4

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

改善状況

- ・2019 年度受審（2020 年 1 月）時の方針を継続する。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないよう、関連部門での取組みを継続する。
- ・医学・看護学教育センターの部門を 6 部門から 8 部門へ改組し、質の高い医学教育の実現に向けた、カリキュラムを遂行するための人的配置を、より適正化する（資料 1-5）。

改善状況を示す根拠資料

- （資料 1-5）医学・看護学教育センター在り方検討 WG 答申

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

改善状況

- ・2019 年度受審（2020 年 1 月）時の方針を継続する。

今後の計画

- ・配分した教育予算について毎年度チェック・見直しを行っており、より効果的で適切な配分を継続するとともに、現在の状況を後退させることがないよう、関連部門での取組みについても継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

8.4 事務と運営

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

改善状況

- ・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないように、関連部門での取組みを継続する。
- ・医学・看護学教育センターでの再編に伴う事務職員の人的な強化を図る

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・国立大学法人評価と機関別認証評価を定期的に受審している。

改善のための示唆

- ・なし

改善状況

- ・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないように、関連部門での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・三重県医療保健部や三重県地域医療研修センター、三重県下全 29 市町との協力関係を築いている。

改善のための助言

- ・なし

改善状況

- ・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないように、関連部門での取組みを継続する。
- ・移行期医療に従事する医師の確保・養成、三重大学医学部附属病院および県内医療機関（国立病院機構三重病院等）における、外来診療、入院管理、コンサルテーション等、福祉機関を含めた関係機関との連携・促進、等を目的とした、地域保健医療部門との交流の拡充に繋がる、移行期医療講座の開設に向けた準備をしている。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・低学年の地域コミュニティ実習で、成人病検診などの保健活動に参加し協働関係を構築していることは評価できる。

改善のための示唆

- ・なし

改善状況

- ・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。
- ・三重県主催のチャイルド・デス・レビューモデル事業に、教員及び学生が参加している（資料4-28）。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないように、地域の保健医療部門との連携協力を継続する。

改善状況を示す根拠資料

（資料4-28）令和6年度三重県予防のための子どもの死亡検証体制整備モデル事業

9. 継続的改良

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

改善状況

- ・2019年度受審（2020年1月）時の方針を継続する。

今後の計画

- ・現在の状況を後退させることがないように、関連部門での取組みを継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準：評価を実施せず

特記すべき良い点（特色）

改善のための示唆

改善状況

- ・なし

今後の計画

・カリキュラム評価委員会は、医学科カリキュラムを適切に評価し、教育の充実を図ることを目的として設置され、委員会での審議結果を医学部長に提言することとしている。カリキュラムの実施は、教務委員会とその下部組織である教育専門委員会とが協力して担っている。カリキュラムに関する検討・立案は、教務委員会とは独立した関係にあるカリキュラム委員会が担う（資料 2-29、8-1、8-2、8-3）。

改善状況を示す根拠資料

（資料 2-29）三重大学医学部医学科カリキュラム評価委員会規程

（資料 8-1）三重大学医学部医学科カリキュラム委員会規程

（資料 8-2）教学の PDCA サイクル（カリキュラム評価委員会・カリキュラム委員会と教務関係部門との関係）

（資料 8-3）三重大学医学部医学科教務委員会規程